

安全データシート

1. 化学品等及び会社情報

化学品等の名称	炭酸水素ナトリウム (Carbonic acid hydrogen sodium salt)
製品コード	H25-A-045
会社名	〇〇〇〇株式会社
住所	東京都△△区△△町△丁目△△番地
電話番号	03-1234-5678
ファックス番号	03-1234-5678
電子メールアドレス	連絡先@検セ.or.jp
緊急連絡電話番号	03-1234-5678
推奨用途及び使用上の制限	入浴剤・医薬・食品添加物・飼料配合原料、土壌安定剤・セメント添加物、医薬、消火剤、粉末石けん原料、食品添加物（ふくらし粉、清涼飲料）、農薬（殺菌剤）

2. 危険有害性の要約

GHS分類 分類実施日 H25.9.19、政府向けGHS分類ガイダンス(H25.7版)を使用
GHS改訂4版を使用

物理化学的危険性	
健康に対する有害性	
環境に対する有害性	水生環境有害性（急性） 分類実施中 水生環境有害性（長期間） 分類実施中

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」に該当する。なお、健康有害性については後述の11項に、「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」の記述がある。

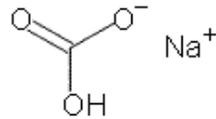
GHSラベル要素

絵表示	該当しない
注意喚起語	該当しない
危険有害性情報	該当しない
注意書き	
安全対策	該当しない
応急措置	該当しない
保管	該当しない
廃棄	該当しない
他の危険有害性	情報なし

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	単一製品
化学名又は一般名	炭酸水素ナトリウム
別名	メイロン (Meylon) プレビネート (Prebinate)
濃度又は濃度範囲 分子式 (分子量)	情報なし CHNaO3 (84.006)

化学特性 (示性式又は構造式)



CAS番号
官報公示整理番号(化審法)
官報公示整理番号(安衛法)
分類に寄与する不純物及び安定化添加物

144-55-8
(1)-164
既存
情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

水と石鹼で洗うこと。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

応急措置をする者の保護

情報なし

医師に対する特別な注意事項

情報なし

5. 火災時の措置

消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

棒状放水

特有の危険有害性

不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

全ての着火源を取り除く。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収・中和: 漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。
封じ込め及び浄化方法・機材: 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。
二次災害の防止策: プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策

技術的対策: 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気: 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

粉じん、蒸気、ヒューム、スプレーの吸入を避けること。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
眼に入れないこと。
飲み込みを避けること。
皮膚との接触を避けること。

接触回避

『10. 安定性及び反応性』を参照。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

保管 安全な保管条件

技術的対策: 特別に技術的対策は必要としない。
保管条件: 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
酸から離しておくこと。
酸化剤から離して保管する。

安全な容器包装材料

情報なし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度 日本産衛学会(2013年度版)

未設定

ACGIH(2013年版)

未設定

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具 呼吸用保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状	固体
色	白
臭い	無臭
臭いのしきい(閾)値	情報なし
pH	pH=8.3(0.1M溶液:25°C):HSDB(2013)
融点・凝固点	50 °C(分解):HSDB(2013)
沸点、初留点及び沸騰範囲	分解:SIDS(2004)
引火点	不燃性:ICSC(2004)
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	情報なし
燃焼性(固体、気体)	不燃性
燃焼又は爆発範囲	爆発しない:SIDS(2004)
蒸気圧	ごくわずか:SIDS(2004)
蒸気密度	情報なし
比重(相対密度)	2.159(20°C):SIDS(2004)
溶解度	水:8.7 g/100ml(20°C):HSDB(2013) 有機:エタノールに不溶:HSDB(2013)
n-オクタノール/水分配係数	情報なし
自然発火温度	不燃性:ICSC(2004)
分解温度	50°C以上で分解する:SIDS(2004)
粘度(粘性率)	情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性

法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。

化学的安定性

湿った空気中では変化する。

危険有害反応可能性

水溶液は弱アルカリ性である。
酸と激しく反応する。

避けるべき条件

加熱、酸との混合

混触危険物質

酸

危険有害な分解生成物

約50°Cで二酸化炭素を放出する。

11. 有害性情報

急性毒性 経口

ラットのLD50値として、> 4,000 mg/kg、7,334 mg/kg、4,220-8,290 mg/kg の報告(SIDS(2004))に基づき、区分外とした。

経皮

ラットのLD50値として、> 2,000 mg/kg の報告(農薬工業会(1996))に基づき、区分外とした。

吸入:ガス

GHSの定義における固体である。

吸入:蒸気

GHSの定義における固体である。

吸入:粉じん及びミスト

ラットのLC50値として、> 4.74 mg/L(4.5時間)(4時間換算値:5.33 mg/L)の報告(SIDS(2004))に基づき、区分外とした。なお、試験実施方法の記載から粉じんによる試験とみなして mg/L を単位とする基準値を適用した。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

ウサギを用いたテストガイドラインに準拠した試験において極めて軽度の刺激（皮膚一次刺激性スコア=0.3）との結果（SIDS（2004））に基づき区分外（国連分類基準の区分3）とした。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

SIDS（2004）に5例のデータが報告されており、信頼性の高いEPA TSCAガイドラインに準拠した試験で24時間後のスコア値（MMTS）が8.3（わずかな刺激性）との報告があることから区分外（国連分類基準の区分3）とした。

呼吸器感作性

呼吸器感作性：データ不足のため分類できない。

皮膚感作性

皮膚感作性：データ不足のため分類できない。

生殖細胞変異原性

データ不足のため分類できない。すなわち、in vivoデータはなく、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験及び哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である（SIDS（2004））。

発がん性

データ不足のため分類できない。

生殖毒性

データ不足のため分類できない。なお、マウス、ラット、ウサギを用いた経口経路（強制）による発生毒性試験において、発生毒性はみられていない（SIDS（2004））。生殖能に関する報告は得られていない。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

経口経路の報告は全てガイダンスの範囲外（3,000-9,000 mg/kg）の用量を投与した試験であり、自発運動の抑制、歩行失調、浅呼吸など一時的な症状がみられたが後に回復している（SIDS（2004）、農薬工業会（1996））ことから、区分3（麻酔作用）とした。なお、ラットの吸入ばく露（ミスト）においては、ガイダンスの上限近傍の濃度（4.74 mg/L）で、一時的な運動抑制、円背位、流涙、鼻汁がみられたが回復性であった。経皮経路においては、ラットにガイダンスの範囲の最高用量（2,000 mg/kg）の原体をばく露した試験において死亡及び毒性症状はみられなかったとの記載がある（農薬工業会（1996））。以上の結果から区分外とした。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

SIDS（2004）に本物質は米国食品医薬品局（FDA）ではGRAS（Generally Recognized As Safe）物質に認定されていることが記述されており、経口経路では区分外相当と考えられるが、他の経路での毒性情報がなく、データ不足のため分類できないとした。

吸引性呼吸器有害性

データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性 水生環境有害性（急性）

分類実施中

水生環境有害性（長期間）

分類実施中

オゾン層への有害性

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意
残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

該当の有無は製品によっても異なる場合がある。法規に則った試験の情報と、分類実施中の12項の環境影響情報とに、基づく修正の必要がある。

国際規制

国連番号 該当しない
国連品名
国連危険有害性クラス
副次危険
容器等級
海洋汚染物質 該当しない
MARPOL73/78附属書Ⅱ及び 該当しない
IBCコードによるばら積み輸送
される液体物質

国内規制 海上規制情報 該当しない
航空規制情報 該当しない
陸上規制情報 該当しない

特別安全対策 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

緊急時応急措置指針番号 該当しない

15. 適用法令

法規制情報は作成年月日時点に基づいて記載されております。事業場において記載するに当たっては、最新情報を確認してください。

水道法 有害物質、水質基準
海洋汚染防止法 有害でないものとして指定する物質
農薬取締法 特定農薬

16. その他の情報

参考文献 各データ毎に記載した。